４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.590-591
体験学校を実施しました、大勢の参加ありがとうございます

【定例活動報告】

　猛暑の夏、新型コロナといった厳しい環境のなか、皆さんのご協力により、安全に定例活動を継続出来ているのは素晴らしいことだと思います。

　ところで、活動参加者（特に若い参加者の皆さん）は活動に必要な場所、チェーンソー等の装備はどのようにして準備しているか考えたことはありますか。楽しく、安全に作業を進め、森に対する意識を高めることは重要なことですが、場所、装備がなければ活動は不可能と言わざるを得ません。重要なポイントとしては

[1]地元のご協力により活動の場が得られていること
[2]ご支援団体からの助成で、装備を整えられていること

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

[3]２０年以上にわたり安全に活動を継続してきた、当会にたいする信用が上記支援のベースにあること等が挙げられます。

参加者の皆さんには、支援を頂いている方々への感謝の気持ちを忘れず、関係する方々からの信頼を裏切らないよう、安全面はもちろんのこと、日頃の行動にも注意していただきたいと思っています。

また、会の円滑な運営のために、地元小原・相模原市との調整、支援団体への実績報告、日常的な畑の管理等、通常の活動からは見えにくい部分も会員で分担していることも知っておいて欲しいと思います。

川田　晃（本会、代表代行）

【定例活動報告】

小菅村での合宿を行いました

今回の合宿は、全ての活動が自分の中での初めての経験でわからないこともありましたが、その分多くのことを知ることができたと思います。1番面白いと思ったのは温泉のエネルギーを効率よく環境に悪影響を与えないよう小菅村が工夫して作っていることにとても魅力を感じました。自分が気づかないところでも地球温暖化のことを考えていると知り、私も少しずつ考えていかなくてはいけないのかなと思うようになりました。他にも鎌の研ぎ方なんて、たぶんこのまま普通に生きていたら絶対知らないままで死んでいたと思うので知ることができてちょっと嬉しいです。川も簡単に流されてしまう怖さ、水遊びの楽しさを感じ、本当は星空も見たかったのですが2日とも睡魔に負けてしまったため見れませんでした。焼きそばも火がつかなかったり苦労がありましたが、この3日間は特に何もすることがなかった私の夏休みの中で1番の思い出になったと思います。先生、小菅村のスタッフの方々ありがとうございました。とても楽しい充実した二泊三日を過ごすことができました！！　　鵜川　史瑛（GTE LAB　中学２年女子）

今回の合宿ではいつもとは全く違う生活をすることができてとても良い経験になりました。一日目に見学したウッドマイザーなどの機械は、いつもの活動で使っている製材機などの機械の何倍も大きく、実際にそれを使ってみて本当に大きな木を使おうと思ったらとても大変なんだなとわかりました。それでも村の未来のことを考えて簡単に安く手にいれることのできる外国産のものや石油などを使わずに、自分たちの村の特徴である多くの森林を活用しようという小菅村の取り組みは、国土の3分の2が森林である日本全体が取り組んでいくべきことだなと思いとても興味が湧きました。二日目は雨の中の作業でしたが、草刈りで鎌の使い方をとても詳しく実際に使いながら知ることができました。鎌自体は小学校の時の稲刈りで使ったことがありましたが、使った後の鎌の手入れは初めての体験でした。私はたまたま両刃の鎌を使うことができました。最初それに気づいたときは、他の人よりも二倍刃を研がなくてはいけないのかと思いましたが、実際に手を動かしてみるととても楽しく、人よりも二倍もすることができてお得な気分になりました。三日目の沢の体験では濡れるか濡れないかを迷っていて、みんなが滝つぼにジャンプしているのを私は見ているだけにしようかなと思っていましたが、滝つぼにジャンプすることなどほとんどない機会だと思ったので緊張しながらも自分も挑戦しました。落ちたあとも上から水が降ってくるので冷たかったですが、みんなと一緒に楽しめてとてもよかったです。また、普段と違ったのは生活面もで、就寝時間が決められていないのがとても驚きでした。原始村は圏外でスマホが使えませんでした。最初はスマホが使えないなんて不便だなと思いましたが、その分スマホの検索ではなくて自分の判断を大事にすることができ、自分の力で生活するというのはこういうことなんだなと思いました。正直ここに書けないほどたくさんの思い出があり、とても充実した三日間でした。来年もまた参加したいと思います！

山田　めぐみ
（GTE LAB　中学１年女子）

桜井尚武の森のコラム

「サンゴジュ（*Viburnum odoratissimum* var. *awabuki*）」

図1　サンゴジュの葉と果実

20230825　吾妻つくば

図2　サンゴジュ孤立木

20190810　昭和記念公園

図3　サンゴジュの垣根

20190328　皇居東御苑

図4　サンゴジュ_ダニ室

20190406　皇居東御苑

スイカズラ科の常緑高木で樹高20mくらいになるといいます。葉は濃緑色の長楕円形で長さ10cmから15cm以上、幅5cmから8cmと大きく厚い革質で全縁、対生し表面には光沢があります（図1）。花期は6月で枝の先に5裂した白い花弁の円錐花序を展開します。核果は8月に紅い大きな房となって稔り目立ちます(図1、2)。この赤い核果は秋には藍黒色に熟します。関東地方南部以西、東海地方、四国九州沖縄の海岸に近い所に分布し朝鮮南部、台湾、中国、さらにインドシナ半島、インド、フィリピン、インドネシアにも分布するそうです。中国に分布するものは*V. odoratissimum*といいますがこれと本種は同じものという見解が主流です。日本種の変種名につけている*awabuki*は燃やそうとすると幹から泡を吹くという事から来ているのだそうで、これを強調して*V. awabuki*という学名を付けたこともありました。中国のものが泡を吹くかどうかは知りませんが、おそらく同じ性質があると思います。このことから垣根など境界に植えて延焼を防ぐという用途が生まれています(図3)。

この延焼防止効果は100年前の関東大震災の時に延焼を防いだ樹木を調べた調査で効果があると認められたことでも有名です。私はこの樹種の植栽されたもの以外の、自然界でのものを観察したことがありません。

クスノキにダニ室のあることが知られていますが、ダニ室用の組織を持つものには多くの種類があることがわかっています。名古屋大学博物館の西田(2004)はダニ室の認められた植物を100種以上例示しています。それはさておきサンゴジュも葉の中肋と側脈の分岐点にダニ室が認められる植物です(図4)。これを利用するダニはフシダニはじめ様々なものがあるようで葉の健全性を維持する働きをしていると考えられていますが詳しいことは解りません。

桜井　尚武（本会、会員）

【活動報告】体験学校（沢体験、流しそうめん大会）を実施しました

８月の第３土日に相模原市を中心に小学生を募集して実施しています体験学校、今年も沢体験と流しそうめん大会で行いました。沢体験では、酷暑とは思えない沢沿いの涼しさを堪能しました。中学生もしっかり小学生をサポートし、午後からは地形が変わるのではと思えるほどの小石でダムを作るチームとさらに上流の滝を目指しました。上流は水量が減るものの、地形が深くなる分「アスレチック度」が上がり、濡れながら次から次へと滝をクリアする体験を楽しんでいました。

流しそうめん大会も４レーンを作り、かなり多めの量のそうめんを用意しましたが、あっという間に小中学生のお腹に収まっていました。大人は、、、後からゆっくり各自でお昼を取り直すことになりましたが普段経験できない自然体験を相模原市の子どもたちにしてもらえたと思います。いずれもほぼ定員の参加者と同数の中学生スタッフ、参加者アンケートも４件法で全員が楽しかったを選んでもらえた成果もありました。

宮村　連理（本会、副理事長）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia